

〔学校給食センター 所管〕

10010403 給食センター施設維持管理事業

決算書P. 371

【財源内訳】

(単位：千円)

	平成30年度	令和元年度	差	主な名称
事業費	52,253	21,156	△ 31,097	
国庫支出金				
県支出金				
地方債				
その他		349	349	土地賃借料
一般財源	52,253	20,807	△ 31,446	

【目的及び期待する効果(誰(何)をどうしたいのか)】

給食センターの設備を適切に管理することによって、調理に支障を来すことなく、安全な給食を児童生徒に提供することができる。

【今年度の取組】

主な備品の補充については、新給食センターで活用可能なサイズのコンテナを3台購入した。調理や衛生環境に支障を来さないよう取り組んだ。

【指標】

指標名	単位	平成26年度	平成30年度	令和元年度	令和3年度
		(基準値)	(実績)	(実績)	(目標値)
不具合等が発見された件数	件	16	33	28	33

【成果の動向】

調理機器等のメンテナンスを定期的に行うことで、調理中のトラブルを回避し、安定して給食を提供することができた。

【今後の事業の方向性】

調理中にトラブルが起きないように調理機器等のメンテナンスを十分に行い、給食の安定供給に努める。



フライヤー(大型揚げ物機)による調理
※中心温度の計測・記録を取りながらの作業



レボル釜による調理
※約2,000人分の調理能力がある。

【財源内訳】

(単位：千円)

	平成30年度	令和元年度	差	主な名称
事業費	481,882	482,089	207	
国庫支出金		2	2	再生利用促進事業補助金
県支出金				
地方債				
その他	311,345	284,312	△ 27,033	学校給食費納付金
一般財源	170,537	197,775	27,238	

【目的及び期待する効果(誰(何)をどうしたいのか)】

栄養バランスの取れた給食の提供を通して、児童生徒の心身の健全な発達に資するとともに、食に関する正しい理解と健全な食生活を営むことができる判断力を養う。

【今年度の取組】

給食センター運営委員会において食材賄費と給食費の現状を説明し、令和3年度からの給食費の値上げについて理解を得ることができた。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策により、令和2年3月が学校の臨時休業になり、給食を停止し、再開に向けた準備を行った。

(給食提供予定日数・・・197日、給食停止日数・・・15日)

【指標】

指標名	単位	平成26年度	平成30年度	令和元年度	令和3年度
		(基準値)	(実績)	(実績)	(目標値)
年間給食予定日数に対する実施日数の割合	%	100.00	100.00	92.65	100.00
一部の献立の提供を中止した回数	回	0	0	1	0

【成果の動向】

食材の価格は年々上がってきているが、賄材料費の予算内で提供している。

【今後の事業の方向性】

学校給食は、児童生徒における学校生活に欠かすことができない事業であり、継続して提供する。

給食費の値上げについては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況を踏まえ検討していく必要がある。



〈守谷生まれ献立〉

守谷生まれの食品をたくさん使った献立。
サケの味噌ヨーグルト焼き、肉豆腐、守谷生まれ味噌汁、ご飯、飲むヨーグルト



〈沖縄県の料理〉

タコライス(タコミート)、タコライスの具(ゆで野菜)、タコライスの具(ソフトチーズ)、もずくのスープ、ご飯、牛乳

【財源内訳】

(単位：千円)

	平成30年度	令和元年度	差	主な名称
事業費		179,635	179,635	
国庫支出金				
県支出金				
地方債				
その他		52,397	52,397	教育文化振興基金繰入金(ふるさと納税)
一般財源		127,238	127,238	

【目的及び期待する効果(誰(何)をどうしたいのか)】

学校給食衛生管理基準に適合した衛生的で安全な調理環境を確保するため、施設を改築することにより、今後約40年間、安定して児童・生徒に給食を供給することができる。

【今年度の取組】

新給食センターの用地を取得した。デザインビルド方式による事業実施のため、プロポーザル方式で事業者の募集・選考を行い事業者を決定し、設計業務に着手した。

【指標】

指標名	単位	平成26年度	平成30年度	令和元年度	令和3年度
		(基準値)	(実績)	(実績)	(目標値)
工事の進捗状況	%	-	-	0	90

【成果の動向】

事業者が決定し、新給食センターの設計業務により設備や工事スケジュール等の協議を実施した。

【今後の事業の方向性】

次年度には基本設計、実施設計を終え、工事に着手し、令和4年4月からの稼働を目指す。現給食センターは令和4年度中に解体を予定している。



新給食センターのイメージ